



健康で豊かな国民生活を保健医療福祉情報システムが支えます

# 2023年度標準化推進部会業務報告会 国内標準化委員会報告

## 医療情報標準化を取りまく動向について

2024年3月8日

国内標準化委員会

田中 利夫

1. 制定・改定されたJAHIS標準類について
2. 委員会活動トピックス
3. 行政関連動向トピックス

# 1. 制定・改定されたJAHIS標準類について

昨年度業務報告会（2023年3月9日）以降に制定・改定された「JAHIS標準」および「JAHIS技術文書」について概要をご紹介します。

2023年3月9日～2024年3月7日の間に制定・改定された **JAHIS標準**

ID	題名	制定・改定年月
22-010	JAHISシングルサインオンにおけるセキュリティガイドライン Ver.2.1	2023年03月
23-001	JAHIS「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイド Ver.4.1（MDS/SDS）	2023年06月
23-002	JAHIS内視鏡DICOM画像データ規約 Ver.3.0	2023年08月
23-003	JAHIS注射データ交換規約 Ver.2.2C	2024年01月

まもなく制定・改定見込みの **JAHIS標準**

題名	備考
JAHIS HPKI対応ICカードガイドライン Ver.3.1	2024年3月13日まで パブコメ募集中



## 22-010 JAHISシングルサインオンにおけるセキュリティガイドライン Ver.2.1

医療システム部会 セキュリティ委員会  
シングルサインオンWG

### <概要>

前Ver.2.0に対し、米国を中心に規格化が進んでいるHL7 FHIRのセキュリティ要件・ユースケース例をリスクアセスメント対象に追加する。HL7 FHIRにおいてシングルサインオン実装の際に利用が推奨されている OAuth2.0、及びOpenID Connectはユースケースに組み込まれていない為、対象プロトコルとして、新たにユースケースに追加する。

### <目的>

医療情報システムも院内に閉じず外部ネットワークのシステムと連携することが多くなり、外部施設との情報交換や、地域、広域としての医療基盤が必要となってきた。また、近年、米国を中心に次世代規格としてHL7 FHIRの規格化が進んでいる。そのような中、前Ver.2.0に対し、HL7 FHIRを用いたセキュアなシングルサインオンに関して、情報セキュリティマネジメントと個人情報保護の視点から、医療機関とベンダーがそれぞれどのようなセキュリティ対策を行って実装すべきかの指針を示すことを目的とする。

<参照URL> <https://www.jahis.jp/standard/detail/id=958>

## 23-001 JAHIS「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイド Ver.4.1 (MDS/SDS)

JAHIS 医療システム部会 セキュリティ委員会  
JIRA 画像システム部会 セキュリティ委員会  
JAHIS-JIRA合同開示説明書WG

### <概要>

厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」第5.2版に対応するため必要箇所を変更する。

### <目的>

安全管理ガイドライン第5.2版に対応する。

※下記URLからは、本ガイド本文の他に、Q&A集、チェックリスト(※)、ユーザーズガイドもダウンロード可能。 ※安全管理ガイドライン6版対応表付き

<参照URL> <https://www.jahis.jp/standard/detail/id=987>

## 23-002 JAHIS内視鏡DICOM画像データ規約 Ver.3.0

医療システム部会 検査システム委員会  
内視鏡部門システム専門委員会

### <概要>

DICOM規格書の内視鏡画像データ関連箇所を抽出し日本語訳することにより、内視鏡部門システムやPACS等の関連システムにDICOM実装するJAHIS会員の便宜を図ったものである。

DICOM規格は、本規約Ver.2.0が参照している2018e版から2023c版までに23回の改定を経ており、この間の更新差分を反映した。

### <目的>

内視鏡のDICOM画像データに関する相互運用性の向上に寄与することを目的とする。

<参照URL> <https://www.jahis.jp/standard/detail/id=1007>



## 23-003 JAHIS注射データ交換規約 Ver.2.2C

医療システム部会 検査システム委員会  
相互運用性委員会

### <概要>

2018年1月に公開した前Ver.2.1Cに対して、日本HL7協会が2020年6月に公開したHL7 V2.5日本語訳見直し版の表現、および「JAHISデータ交換規約(共通編) Ver.1.3」や他の標準規約との整合性の確保を行った。

また、各ベンダが提供する製品のJAHISデータ交換規約への適合性を評価し、公表するための適合性宣言書の採用や、HL7 FHIR等からJAHIS標準で定義したコード表を参照する際に必要となるOIDの付番を行った。

### <目的>

医療情報システムにおける相互運用性の普及推進、および最新情報への準拠。

<参照URL> <https://www.jahis.jp/standard/detail/id=1037>

2023年3月9日～2024年3月7日の間に制定・改定された **JAHIS技術文書**

ID	題名	制定・改定年月
23-101	JAHIS電子処方箋運用における薬局レセコンと電子薬歴システムの連携仕様書 Ver.1.0	2023年09月
23-102	JAHIS ePath実装ガイド Ver.1.0	2023年10月
23-103	JAHISセキュアトークン実装ガイド・機器認証編 Ver.1.1	2024年01月
23-104	JAHISセキュアトークン実装ガイド・ノード認証編 Ver.1.2	2024年02月

## 23-101 JAHIS電子処方箋運用における薬局レセコンと電子薬歴システムの連携仕様書 Ver.1.0

医事コンピュータ部会 調剤システム委員会

### <概要>

薬局の電子処方箋運用における「電子薬歴からレセコンへの連携仕様」のファイル連携仕様  
電子薬歴側から調剤結果に付与する情報(疑義照会結果や処方医への情報提供など)  
を戻すための連携ファイルフォーマットを含めた連携仕様を定義する。

- ① レセコンから電子薬歴への情報共有方法の定義
- ② 電子薬歴からレセコンへの調剤結果情報作成に必要なデータセット項目の定義

### <目的>

レセコンと電子薬歴が別ベンダーとなる薬局においても、電子処方箋運用を円滑に行う為、  
「電子薬歴からレセコンへの連携仕様」と「レセコンから電子薬歴への連携仕様」の標準仕様  
を提案する。

<参照URL> <https://www.jahis.jp/standard/detail/id=1018>

## 23-102 JAHIS ePath実装ガイド Ver.1.0

医療システム部会 電子カルテ委員会

### <概要>

日本医療情報学会（JAMI）標準（JAMISDP04）として公開された「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」（Ver.1.0.1）に対応したePathの実装を進める際の参考となる実装ガイドである。

### <目的>

電子カルテシステムベンダーが「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」（Ver.1.0.1）に準拠したパスシステムの開発を進める上で、仕様書を齟齬なく理解するための補助的な役割を担うこと。それによりePathの普及が進み電子カルテシステムベンダーの間での相互運用性のある電子クリニカルパスシステムの構築、標準化されたパスのデータの蓄積と解析によるクリニカルパスの最適化、更には医療安全の向上と医療の効率化に寄与すること。

<参照URL> <https://www.jahis.jp/standard/detail/id=1020>

## 23-103 JAHISセキュアトークン実装ガイド・機器認証編 Ver.1.1

医療システム部会 セキュリティ委員会  
セキュアトークンWG

### <概要>

医療サービスを行う医療機関等に設置された医療情報システムを構成する物理的個体識別可能なエンティティである医療機器等を、Wi-Fiによって施設内ネットワークに接続する目的で識別・認証するためのクレデンシャルを格納するセキュアトークンに関して、利用のユースケース、相互運用性確保の仕様、要求事項等を明らかにし、機器管理を行う実例を示す。

参照している厚労省の安全管理ガイドラインが第6.0版に改定されたため、該当部分等を第6.0版に合わせて改定する。また、技術の進展に合わせて記載を追加する。

### <目的>

Wi-Fiを用いて施設内ネットワークに医療機器等を接続する場合に、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第6.0版」の要件を満たすための方法や例を示すとともに、そこで利用されるセキュアトークンに関して、ユースケース、セキュアトークンの要件、運用上の要件、相互運用の要件を明らかにすることで、医療機関等が安全かつ円滑にネットワーク基盤が導入・運営されることを目的とする。

<参照URL> <https://www.jahis.jp/standard/detail/id=1040>

## 23-104 JAHISセキュアトークン実装ガイド・ノード認証編 Ver.1.2

医療システム部会 セキュリティ委員会  
セキュアトークンWG

### <概要>

本ガイドでは、医療サービスを行う施設・設備等のノードを識別・認証するためのクレデンシャルを格納するセキュアトークンに関して、セキュアトークンを利用する際に要求される運用上の要求事項を明らかにしている。

厚労省の安全管理ガイドラインが第6.0版に改定されたため、参照部分等を第6.0版に合わせて改定するとともに、ユースケースの見直しを行う。

### <目的>

ノード認証に用いられるセキュアトークンに必要とされる機能、相互運用で必要となる仕様を明らかにすると共に、運用上で要求される事項をまとめることによって、医療機関等の施設認証の基盤が円滑に導入・運営されることを目的とする。

<参照URL> 掲載準備中

JAHISについて

活動と報告

部会情報

JAHIS標準

教育・セミナー事業

会員向けページ

トップ > JAHIS標準 > 制定済標準

> JAHIS標準

> JAHIS技術文書

> OID一覧

> JAHIS標準とは

> 制定済標準

> パブリックコメント



入会案内



## JAHIS標準

JAHISで作成し、制定した標準を紹介しております。

### ※注意事項

- ・網掛されたものは既に改定された標準類ですので、最新版を閲覧してください。  
(旧版を参照しているシステムのために、現在も閲覧可能としています。)
- ・技術文書の中には技術動向の紹介目的で作成したものも存在します。  
各技術文書の制定目的をご理解の上ご利用ください。

JAHIS標準類のカテゴリ分類は [こちら](#) を参照ください



各種届出書式



教育事業



制定済標準類



標準類全体図  
オーバービューチャート



会誌



## 2. 委員会活動トピックス

今年度の国内標準化委員会活動におけるトピックスについて、  
ご紹介します。



## ◆ Fast Track 導入のための 「JAHIS標準類の制定等に関する規程」の改定

- JAHIS外の標準化組織が定める標準類、特に行政等が定めるガイドラインや医療制度(法令)等に準じる、あるいは、それらを参照している「JAHIS標準」において、当該の標準類、ガイドラインや制度等が改定された際には、それらの改定事項のみを修正することを条件に、適切な改定を迅速に行えるようにするため、関連する規程の改定を行いました。

**JAHIS規程 3001号**

**JAHIS標準類の制定等に関する規程 2023年5月17日改定**

## 3. 行政関連動向トピックス

行政関連動向のトピックスについて、ご紹介します。

## 医療DXの推進に関する工程表（概要）

### 基本的な考え方

- 医療DXに関する施策の業務を担う主体を定め、その施策を推進することにより、①国民のさらなる健康増進、②切れ目なく質の高い医療等の効率的な提供、③医療機関等の業務効率化、④システム人材等の有効活用、⑤医療情報の二次利用の環境整備の5点の実現を目指していく
- サイバーセキュリティを確保しつつ、医療DXを実現し、保健・医療・介護の情報を有効に活用していくことにより、より良質な医療やケアを受けることを可能にし、国民一人一人が安心して、健康で豊かな生活を送れるようになる

### マイナンバーカードの健康保険証の一体化の加速等

- 2024年秋に健康保険証を廃止する
- 2023年度中に生活保護（医療扶助）でのオンライン資格確認の導入

### 全国医療情報プラットフォームの構築

- オンライン資格確認等システムを拡充し、全国医療情報プラットフォームを構築
- 2024年度中の電子処方箋の普及に努めるとともに、電子カルテ情報共有サービス（仮称）を構築し、共有する情報を拡大
- 併せて、介護保険、予防接種、母子保健、公費負担医療や地方単独の医療費助成などに係るマイナンバーカードを利用した情報連携を実現するとともに、次の感染症危機にも対応
- 2024年度中に、自治体の実施事業に係る手続きの際に必要な診断書等について、電子による提出を実現
- 民間PHR事業者団体やアカデミアと連携したライフログデータの標準化や流通基盤の構築等を通じ、ユースケースの創出支援
- 全国医療情報プラットフォームにおいて共有される医療情報の二次利用について、そのデータ提供の方針、信頼性確保のあり方、連結の方法、審査の体制、法制上あり得る課題等の論点について整理し検討するため、2023年度中に検討体制を構築

## 電子カルテ情報の標準化等

- 2023年度に透析情報及びアレルギーの原因となる物質のコード情報について、2024年度に蘇生処置等の関連情報や歯科・看護等の領域における関連情報について、共有を目指し標準規格化。2024年度中に、特に救急時に有用な情報等の拡充を進めるとともに、救急時に医療機関において患者の必要な医療情報が速やかに閲覧できる仕組みを整備。薬局との情報共有のため、必要な標準規格への対応等を検討
- 標準型電子カルテについて、2023年度に必要な要件定義等に関する調査研究を行い、2024年度中に開発に着手。電子カルテ未導入の医療機関を含め、電子カルテ情報の共有のために必要な支援策の検討
- 遅くとも2030年には、概ねすべての医療機関において、必要な患者の医療情報を共有するための電子カルテの導入を目指す

## 診療報酬改定DX

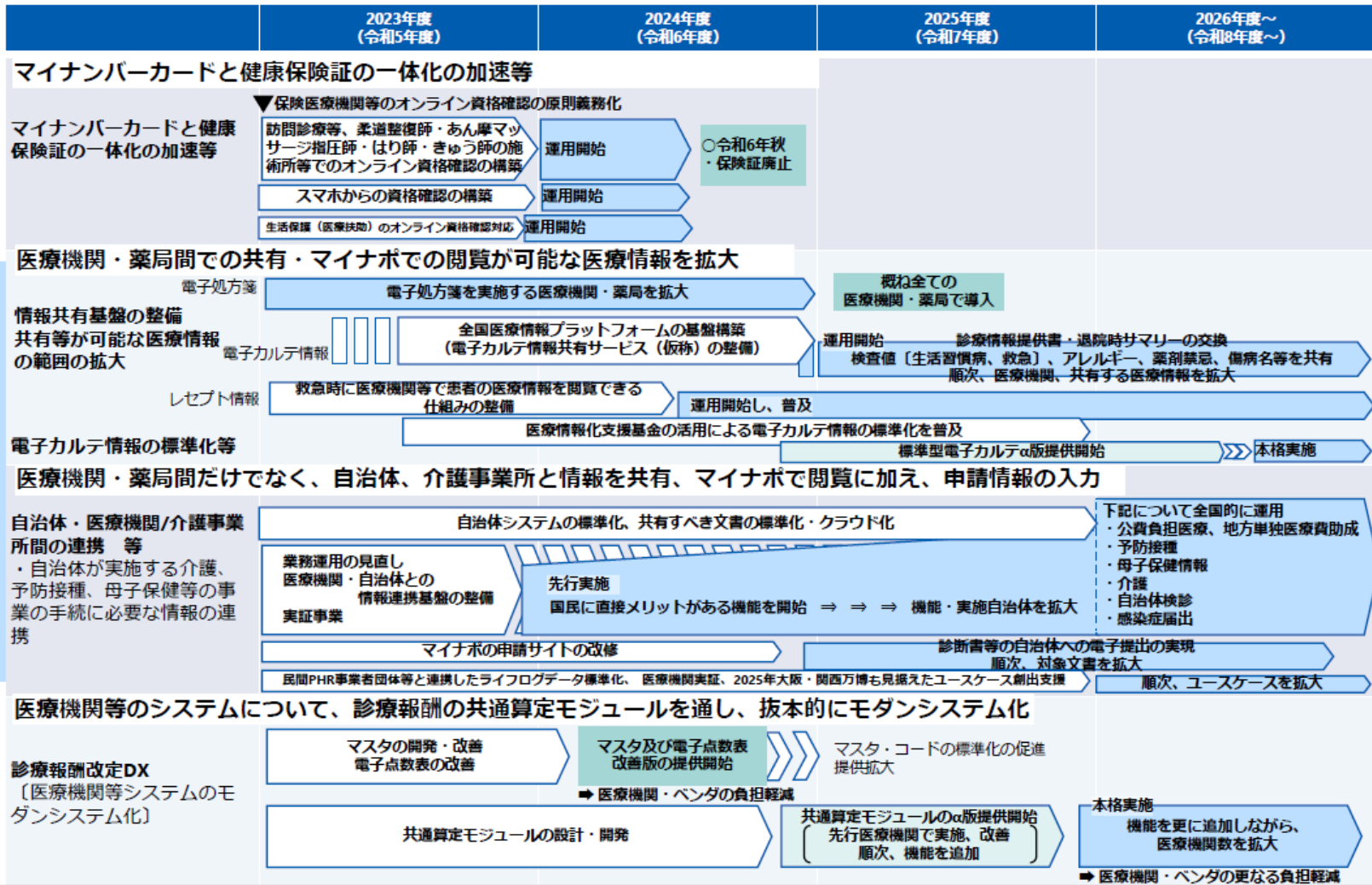
- 2024年度に医療機関等の各システム間の共通言語となるマスタ及びそれを活用した電子点数表を改善・提供して共通コストを削減。2026年度に共通算定モジュールを本格的に提供。共通算定モジュール等を実装した標準型レセコンや標準型電子カルテの提供により、医療機関等のシステムを抜本的に改革し、医療機関等の間接コストを極小化
- 診療報酬改定の施行時期の後ろ倒しに関して、実施年度及び施行時期について、中央社会保険医療協議会の議論を踏まえて検討

## 医療DXの実施主体

- 社会保険診療報酬支払基金を、審査支払機能に加え、医療DXに関するシステムの開発・運用主体の母体とし、抜本的に改組
- 具体的な組織のあり方、人員体制、受益者負担の観点から踏まえた公的支援を含む運用資金のあり方等について速やかに検討し、必要な措置を講ずる

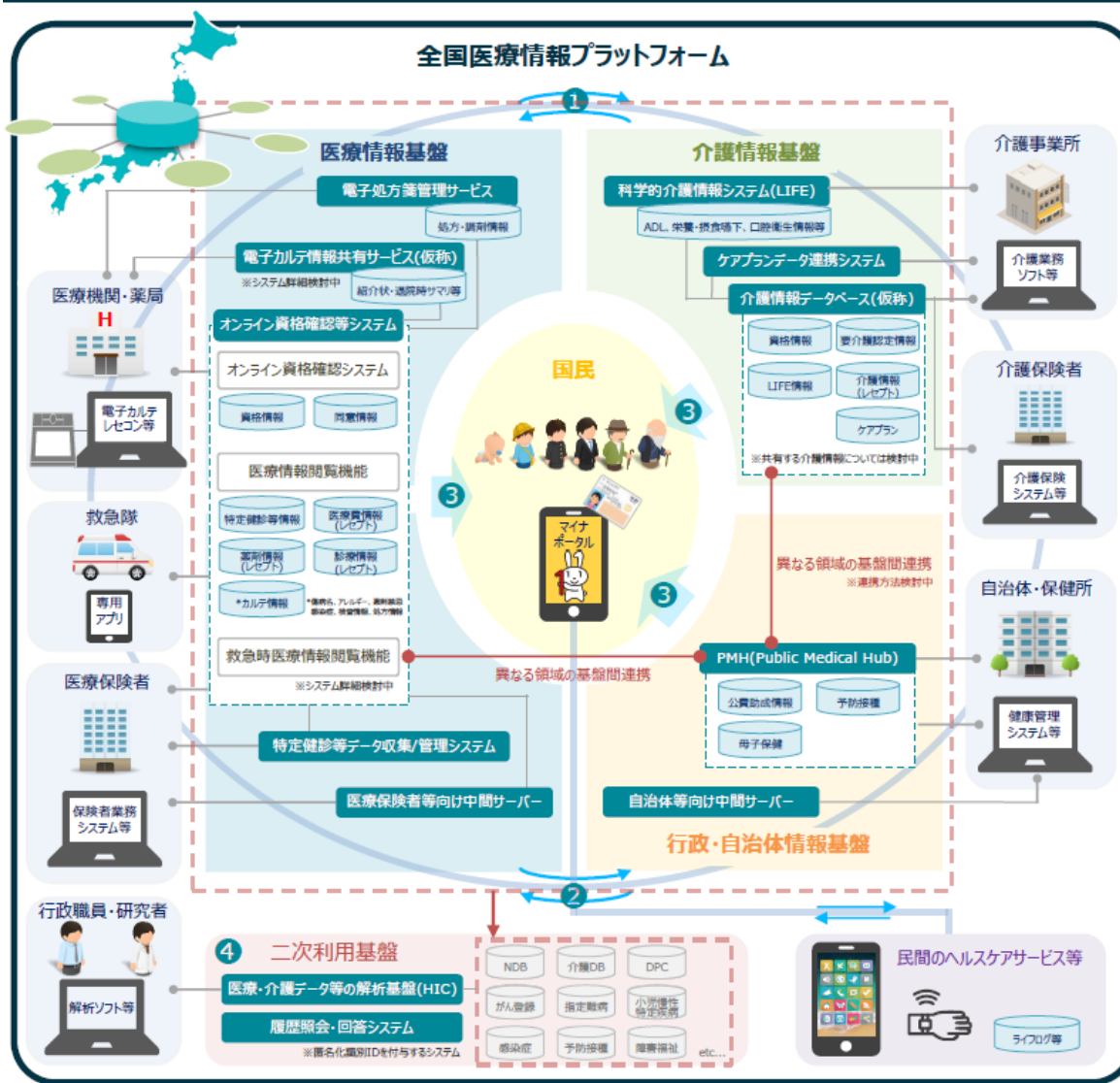
## 医療DXの推進に関する工程表〔全体像〕

全国医療情報プラットフォームの構築





全国医療情報プラットフォームの全体像 (イメージ)



## 「医療DXのユースケース・メリット例」

- ### 1 救急・医療・介護現場の切れ目ない情報共有

✓ 意識不明時に、検査状況や薬剤情報等が把握され、迅速に確かな治療を受けられる。  
✓ 入院時等に、医療・介護関係者で状況が共有され、より良いケアを効率的に受けられる。
- ### 2 医療機関・自治体サービスの効率化・負担軽減

✓ 受診時に、公費助成対象制度について、紙の受給者証の持参が不要になる。  
✓ 情報登録の手間や誤登録のリスク、費用支払に対する事務コストが軽減される。
- ### 3 健康管理、疾病予防、適切な受診等のサポート

✓ 予約券や接種券がデジタル化され、速やかに接種動員が届くので能動的でスムーズな接種ができる。予約券、問診票を何度も手書きしなくて済む。  
✓ 自分の健康状態や病態に関するデータを活用し、生活習慣病を予防する行動や、適切な受診判断等につなげることができる。
- ### 4 公衆衛生、医学・産業の振興に資する二次利用

✓ 政策のための分析ができることで、次の感染症危機への対応力強化につながる。  
✓ 医薬品等の研究開発が促進され、よりよい治療や確かな診断が可能になる。

二次利用データベース群(例)

NDB	介護DB	DPC
がん登録	指定難病	小児慢性特定疾病
感染症	予防接種	障害福祉

各DBのデータ連携 → 解析基盤 → 行政職員・研究者 医薬品産業等

**JAHISでは国の施策や社会情勢、動向等も踏まえた上で、将来ビジョンや中期計画、ならびに年度毎の事業計画を策定しており、国内標準化委員会としましても、各部門／委員会等と連携して、それらの実現に寄与するための活動を行っております。**

**医療情報・介護情報に関連する標準類の制定はJAHISの主要なミッションのひとつであり、その推進には、JAHIS内各部門／委員会／WG等で活動されている皆様のご尽力とご協力が不可欠です。**

**今後とも、引き続き、よろしくお願い申し上げます。**

**活動を推進する人材の確保および育成が重要な課題となっています。当委員会活動への参画にご興味をお持ちの方がいらっしゃれば、お声がけください。**

ご清聴いただきありがとうございました。

